第35回北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会　開催概要

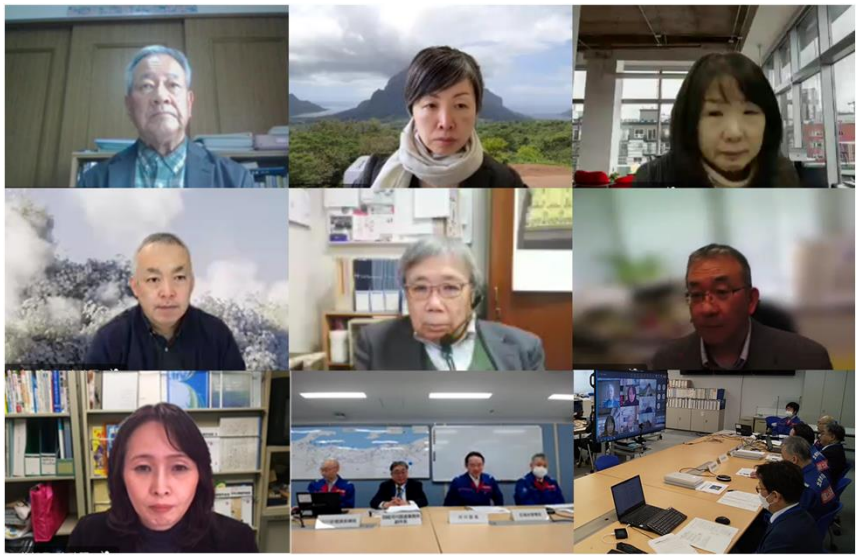
ダムの適切な管理に資することを目的に、北陸地方整備局が管理する7ダムの洪水調節や利水補給の実績、環境調査の結果等について有識者よりご意見を伺う「北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会」を平成8年度より毎年開催しています。

今年度は、去る3月21日に委員会を開催し、5年毎に実施する定期報告（対象：大石ダム）と毎年実施する年次報告（対象：全ダム）の内容について審議頂きました。

■日時　　令和６年３月２１日（木）１４：００～１６：００
■場所　　北陸地方整備局６階河川情報管理室（WEB形式）
■委員（名簿）

委員長	辻本　哲郎	（名古屋大学　名誉教授）
委　員	飯田　碧	（新潟大学　准教授）
	池本　良子	（金沢大学　名誉教授）
	関島　恒夫	（新潟大学　教授）
	中田　政司	（富山県中央植物園　園長）
	平林　公男	（信州大学　教授）
	柳原　佐智子	（富山大学　教授）

■議事
（１）大石ダム管理定期報告書（案）について
（２）北陸地方ダム管理年次報告書（案）について



委員会の開催状況（会議WEB画面）

■大石ダム管理定期報告書（案）について

【総括】

平成30年度～令和4年度の調査結果の分析・評価をとりまとめた大石ダム管理定期報告書（案）について、審議され、治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況に現状で問題ないことから、大石ダムについては適切に管理運用されていることが確認され、定期報告書については了承された。

【主な意見】

・「洪水に達しない流水の調節」という文言が一般の方には伝わりにくいと考える。分かりやすい表現に修正した方が良い。
・大腸菌群数から大腸菌数へ評価項目が変わったことを記載した方が良い。
・動物プランクトンの増減と、水質障害や生物への影響に対する因果関係は評価が難しいため、記載内容を工夫した方が良い。
・国管理ダムからダム下流区間へ外来種であるイタチハギが拡散している状況は問題であるため、対策を講じる必要があると考える。ダムの水位運用で対応できるのが一番効果的ではないか。
・コロナ禍を経て、ダムに興味を持っている人が減っているように感じる。ダムへの興味を持ってもらえるような新しい工夫が必要と考える。

■北陸地方ダム管理年次報告書（案）について

【総括】

大石ダム、手取川ダム、大町ダム、大川ダム、三国川ダム、宇奈月ダム、横川ダムの7ダムについて、令和4年度の管理・運用状況をとりまとめた北陸地方ダム管理年次報告書について、報告された。

【主な意見】

・コロナ禍での分散勤務形態においてダム管理業務を維持した実績が重要であり、評価は難しいがその蓄積がメリット・デメリットの把握に繋がるものと考える。
・単年のみの記載だとその前後の変化傾向が分かりにくく、誤解を招くこともあるため、整理方法を工夫する必要がある。
・令和4年8月洪水に関し、外水の水位低減効果と内水被害の内容が混在して記載されており、分かりにくいため区別した方が良い。
・堆砂対策の実施内容を具体的にしたほうが良い。
・ダム管理所・資料館等への来場者数に対してダムカード配布枚数が少ないダムについては、ダムカードのPR方法を工夫した方が良い。